

2020年度事業計画書

特定非営利活動法人トイボックス

【事業実施の方針】

今年度も「こどもとちいき」をテーマに自治体や地域の活動団体、市民と連携して、ひとりひとりのニーズを細やかに汲み取った活動を継続します。次の3点をToyボックスというNPOの独自性・強みとして、事業を実施します。

- 1 教育・福祉・まちづくりを中心に多分野に広がる専門的な事業実施力
- 2 施設や拠点を設けて活動し、地域に密着した運営を継続する事業展開力
- 3 行政や地域の方と連携し協働することによる新規事業・新規エリアへの事業展開力

世界で初めての急激な人口減少時代に直面する日本。地域コミュニティでもさまざまな課題が山積しています。これらの課題の解決に市民・NPO・行政・企業などが協力してあたり、多様な人材が生き生きと活動することで解決していくこと。そして、すべてのこども達が笑顔で成長できる社会、すべての人々が自分らしく生きられる社会を実現することを目指し、今年度も従来からの活動拠点（地域ごとの事業部）での活動を深め、また、新しい地域での活動を展開します。

【組織運営】

代表理事の変更にあわせ、組織全体のあり方を一新します。

各地域事業部の自主経営力を高めることでそれぞれの独立性を高め、相互交流の機会を増やして相互連携します。本部事務局に所属する管理・企画・制作・社会福祉・就労支援・飲食等の専門セクターのスタッフがサポートすることで、各地域事業部の活動の幅を広げます。

【新型コロナウイルスの影響と追加の対応】

4月に新たにスタートした2事業の立ち上げの遅れ、既存事業の売上の減少や事業の一時休止など、当初月700万円ほどの減収が見込まれました。一時休止の事業の担当者を助成金申請の担当に移動するなどの人員の調整と、借入による資金確保と支出の整理を行い、今年度の事業資金の捻出をしています。新規事業（スマイルファーム細河、TSUMIKI COFFEE）の収益の確保を急ぐとともに、新たな助成金の確保（JKA、WagterDfagon）、新たな事業の確保（大東市子ども支援事業等）を行います。

【2020年度以降の活動の方向性】

現在活動中の自治体、新規の自治体の両方で、指定管理施設への応募を検討します。具体的には、交流のある伊丹市・八尾市・門真市等での公募への応募を予定しています。また、生野区の廃校活用プロジェクト、高槻市でのギフト教育施設の立上げプロジェクトを開始します。

組織と事業



【事業部の概要】

2003年より、日本初の公設民営のフリースクールとしてスマイルファクトリーが活動を開始。不登校や発達障がいのある子ども達の自立をサポートする教育事業を展開してきました。2015年、池田市での活動を子育て支援全般へと広げ、子育て支援サイト「kodomoto いけだ」を開設、また拠点を伏尾台へ移し、人口減少時代のまちづくりへの取組みなど、幅広い分野での活動を行っています。

1. スマイルファクトリー(継続)

■内容 / ・フリースクール運営事業

- ・教育相談事業（池田市委託事業）
- ・児童発達支援事業および放課後等デイサービス事業
- ・スマイルカフェの運営、地域交流、伏尾台地域のまちづくり事業、kodomotoいけだ

■事業の対象者 / 小中学生、地域住民

■課題と展開 / 伏尾台小学校跡地に移転後、資金と人的リソースが不足している状態が続いている。学校運営や自治体との連携のあり方を再構築し、現場スタッフの能を活かせる仕組みに今年度中に変更する。

2. スマイルファクトリーハイスクール(継続)

■内容 / ・オルタナティブスクール運営事業

- ・技能連携校、サポート校運営事業

■事業の対象者 / 高校生

■課題と展開 / 技能連携校との提携方法の改善により、学校法人を設立しなくてもより自由度の高いカリキュラムを組むことができるようになった。本年度は、多用な特性をもつ若者個々の能力を高める少人数教育のカリキュラムの確立と、生徒募集の仕組みづくりに力を入れる。

3. スマイルファーム細河(新規)

■内容 / ・農福連携型の就労継続支援B型作業所の運営事業

- ・細河地域のまちづくり事業

■事業の対象者 / 障がい者、地域住民

■課題と展開 / 2020年4月開所。新型コロナウイルスの影響で立上げが遅れているため、定員20名の8割を今年度中に集め、運営の確立を図る。将来的にAI農業の特例子会社を運営し、細河地域全体の活性化につなげることが目標。

【事業部の概要】

2017年より、箕面市および日本財団との3者での連携により、貧困の連鎖を抑止するための施設として事業を開始。夕食の提供や、歯磨きや食事の準備後片付けなどの生活訓練など、通常の放課後児童クラブよりも一歩踏み込んだ運営をしている。特に生き抜く力（非認知能力）を育てる独自のプログラムの実施を高く評価され、日本財団の展開する全国のb&g事業のモデルとなっている。第2拠点の開設、コンサル事業などを展開中。

1. b&gみのお(継続)

- 内容 / ・貧困の連鎖の防止を目的とした放課後児童施設。
- 事業の対象者 / 小学生
- 課題と展開 / 子どもとご家族へのプログラム提供は順調で全国の同施設のモデルとなっている。今年度、日本財団が運営資金を提供する開設後3年の期間をすぎるため、次年度以降の予算の確保と、予算減少への対応策を今年度準備する。

2. b&gまきおち(継続)

- 内容 / ・箕面市内2拠点目となる施設の建設、運営
- 事業の対象者 / 小学生
- 課題と展開 / 新型コロナウイルスの影響等により、当初より建設計画が遅れている。市から無償貸与された土地にToyボックスが建物を建て、今年度中に運営を開始する予定。

3. コンサルタント事業(新規)

- 内容 / ・運営に課題のある、運営の上手くいっていない他b&gへのコンサルタント事業
- 事業の対象者 / 日本財団、他b&g拠点
- 課題と展開 / 今年度より開始。鳥取、佐賀、長崎、沖縄の5拠点の運営団体に対する伴走支援。b&gの運営ノウハウの提供、チームビルディングや事業スキームの構築などのコンサルティング事業を実施予定。

【事業部の概要】

2009年より、門真市民文化会館ルミエールホールおよび門真市立市民交流会館中塚荘の指定管理者として、両施設を運営。同時に門真市全体の文化芸術活動の活性化と子ども・アーティスト支援事業を展開。市民や他団体との連携を深め、文化芸術の基本計画の策定業務や子育て支援業務など、人口減少時代を迎える地方自治体への支援事業のモデル的展開を行っている。

1. ルミエールホールおよび中塚荘指定管理事業(継続)

■内容 / ・施設の運営管理

- ・各種文化事業の実施
- ・文化芸術による子ども育成事業
- ・アーティストの支援事業
- ・市民の文化芸術活動の支援事業
- ・文化芸術基本計画の策定
- ・子育て支援事業、宿題カフェ事業

■事業の対象者 / 地域の住民、子ども、アーティスト

■課題と展開 / 指定管理期間も3期目12年目に入り、地域との協働も問題なく広がっている。施設の運営管理と事業の実施については更にレベルアップし他サービスを提供していく。新型コロナウイルスの影響で、ホールの閉館期間が長くなり、また、再開後も以前ほどの利用がないため、収入を確保することが大きな課題となっている。NPOが大規模なホールの運営を続ける例は全国的にも珍しく、指定管理者としてのブランディングにも力を入れていく。

2. TSUMIKI COFFEE(新規)

■内容 / ・レストラン・カフェの運営

■事業の対象者 / 地域

■課題と展開 / 新型コロナウイルスの影響で、通常営業ができない日が続いている。売上を確保しながら、市内の飲食店との連携を深めまちづくりの活動を充実させていく。

3. 市民プラザ・公民館の指定管理者公募への応募(新規)

■内容 / ・新規指定管理者への応募

■課題と展開 / 門真市での活動を更に充実安定させ、市や市民とのパートナーシップを高めるために、指定管理者の公募へ応募する。

【事業部の概要】

2018年4月より、東大阪市長市民多目的センターの指定管理者事業を開始。東大阪市全体での活動方針はいまのところ確立していない。

1. 東大阪市長市民多目的センター指定管理者事業(継続)

■内容 / ・施設の運営管理

- ・各種文化事業の実施
- ・市民の文化芸術活動の支援事業
- ・子育て支援事業、宿題カフェ事業

■事業の対象者 / 地域の住民、子ども、アーティスト

- ##### ■課題と展開 / 人口50万人の中核市にあるコミュニティ施設としての事業モデルのあり方の確立を図る。3年目で通常の運営の安定感は増しており、今後は貸館機能だけでなく、地域コミュニティとの連携事業の運営力を高めていく必要がある。

【事業部の概要】

2011年に、被災地復興支援事業として活動を開始。2012年にみなみそうまラーニングセンターを開設、課題感の強い児童を中心に生活訓練、自立サポートの事業を行う。2017年4月には小規模保育所原町にこにこ保育園を、2018年4月には錦町児童クラブ（放課後児童クラブ）を開設。乳幼児から小学生までの子育て支援を行っています。

1. 錦町児童クラブ(継続)

■内容 / ・放課後児童クラブ

■事業の対象者 / 小学生

■課題と展開 / 運営2年目に入り専門家の支援を仰ぐことで子ども対応の現場実務は向上している。事務運営に関し、放課後児童クラブ制度への理解を高め、適切な事務処理を行うことが本年度の大きな目標。

2. みなみそうまラーニングセンター(継続・新規)

■内容 / ・市内の他の放課後児童クラブのサポート（緊急SC事業）

・様々な特性をもつ子ども達に居場所を提供し、地域や専門機関とつなぐ
コミュニティアプローチ事業（ハタチ基金）

■事業の対象者 / 様々な特性をもつ小学生、中学生

■課題と展開 / みなみそうまラーニングセンターは、活動の経過の中でその役割と専門領域があやふやになってしまっており、コンセプトの再整理をする必要があった。本年度をリスタートの年度とし、コミュニティの中で専門機関と連携しながら子育ての支援、子育てに関する地域の意識の変容を起こす活動を行っていく。

3. 原町にこにこ保育園(新規)

■内容 / ・小規模保育事業

■課題と展開 / 設立4年目を迎え、安定した運営となっている。今後の課題として、地域の保育環境への貢献（研修の実施・保育人材の確保等）できるようになることが挙げられる。

1. 就労支援の事業(継続)

■内容 / ・ノブタグループ就労支援事業

・生活介護事業（2021年度実施予定）

■事業の対象者 / 障がい者

■課題と展開 / 新型コロナウイルスの影響でパチンコ店が休業となり、ノブタグループの就労支援事業も3ヶ月休止した。契約形態や事業の実施方法を見直し、安定した形での再開を図る。指定管理施設の清掃業務等を就労支援事業や生活介護事業と組み合わせ、業務効率を向上させる。福祉人材の自社育成体制を整える。

2. 地域協働の事業(継続)

■内容 / ・トコトコダンダン

・café LOBBY

・宿題カフェ

■事業の対象者 / 地域住民、子ども

■課題と展開 / コミュニティの振興と子育て支援というテーマで評価を得ている各事業を今年度は運営資金面でも持続可能なものとしていく。現在の助成金による事業運営から、新型コロナウイルスによる社会変容を踏まえたソーシャル・ビジネスのモデルを構築する。

3. 指定管理の事業(新規)

■内容 / ・新規指定管理施設の公募への応募

■課題と展開 / 指定管理施設の公募に応募し運営をしていくことで新しい自治体へと活動の場を広げる。候補として、児童館（伊丹市）、文化施設（八尾市）、集会施設（大阪市区）を検討する。

4. 学校跡地活用の事業(新規)

■内容 / ・生野区学校跡地活用事業への応募

■課題と展開 / 生野区の活動団体と連携し、2021年4月から開始予定の学校跡地活用事業へ応募する。

5. ギフテッド教育の事業(新規)

■内容 / ・TAKATSUKIこどもみらい創造センターの設立

■課題と展開 / 高槻市、大阪市立医大LDセンターと連携し、障がい児やグレーゾーンの子ども達へのギフト教育の総合センターを設立する。2023年4月オープンを目指す。